袖中抄 第十七

中村俊定文庫
文庫 18
1018
7

袖中抄第十一

因縁

あるものゝ
あやめ草ふかきあやめ
うゝうゝ
ちくのあやめ

さゝゝゝあやめ
むさゝゝあやめ
さゝひものゆのさゝたき
ちくゝゝ

宮城県図書館

袖中抄第十一

あのむれら

あのむれらのうちもひろ物ゐるうり

あらかさあそこ所とるくたち

とりつくれそあらこと

ほうかさよこ所と形くあるうんうりけく

あのむのうわをい清らすきん

顕昭云伊勢物語云むかし男武蔵(ムサシ)の国まうくま

しいあるあの所とき女ほうのうちいあと

人よなそせんとのいろ所をあるんこのようふ

中村俊定文庫

人よあそんといひくらもあらぬ人
めくさくはんぞくをひあて人をと
ぶらをこうくらさてうのむこう稲よりみく
ゐわくらをもむ而もむさしの国いらこのか
ぶをんよりよくぶをめそをみくろとつりひあ
乃むめくわとこをぶをんとこ乃いつう物ひきふて
ゐうあり基後（モトヒ）の東國よ廉物（ニカカリ）をろ人ゆんあ
ひをしくろ乃ろいくをんよりあひくくら
をしくをの目とわくあくをあくをさり
む稲とおこるひくあろ人よくをと陸さて

後乃日くをこをあをあくくあひよをろ後をむ
乃くわとくをあ後物をを田乃おをのくるをとつり
来よをくおくわくをあをくをあをくるをう稲をて
きみをあんくあを廉物をとくおくくをとつわ文月乃
業歌云
をくあくくああくをあのをよあくあつをん
ををくくをあをくをさくをくをを
をくわのをあくを稲をくあつををくあをを
をくくを乃あをくををくををくあり
文一条物語集よを大物語乃意よをむ人

よかるべしかりそめにかかる所のうち中よび
女乃家のまへを通りもせざるまよはせて安
いづくにかありけむ
雲井にも数のさくらの義相なるかハ
あのむのうまとちらく鳴たん
[illegible]
よのなかにさくらもしらぬつらし数
あのむのうまよりまこと作らん
ひ者のとくをあるうの瑞をもてちらく
ちりぬるをいつ田乃物ちりぬるゆめくありと

いつり
今業よりひ出ぬ所よりさくら者ハ物綿沒物奥
義物童蒙物ハ同く二乃義をいひ乃へく蒙
特ハいとれと田乃あるといふを紀義よりちる
あり
他ハ所ハ京ハ也乃ゆ[illegible]ハあのむれりさ
いへ[illegible]ちるとも[illegible]ちなくとよこた
まてちるとこ[illegible]よりさくよ海んくるの
ふまへとありをいとふ[illegible]へしよりく
くらひあいとれを作をとありく作り田乃面

とい〳〵むかし男ありしみつと清く居られ
野辺より出たりしも国ある人のなきにはみなし
乃里とそよむへきなりけりとい今ま廉精
とハさおくるをあるのむかといはえりかふかさ
云あれとのかわとハとわするそ積ある方の色
ハおもての御かりまハあるのむかといへるかま
あらハもあるのむのかと云事のあまりしこそ
見ゆるしみえあるのむのからハよくきめそれは
かわといふ絹乃為よかりひあれともくよふ
よむ先まへしあまき紙為金といふ人もある

かの紙をとく廉精と云人の為ミと云ハまこと
よわくらんとよまれ見かうしみえある乃むの
かわといふハ廉精之その弟かる為よまうへく
時ならよむへしとんとみよるあるふ色のハ古字ハ
か殿のよさへよあかり書事也古哉毛をとよあるか

貫之

さかはをと梅さも思ふる梅ちあれと
いろをハ人も思ひしらそ梅そふ
さ月さそとそこあるも思ひあふちあれともふ
まてハ瀬あらいろをけと云ハ前のよそへあり

別説ハ声乃あはれさはかりもとはかりもの八
つまなきさまとを入ありましく鴨と鳴といふに
おもひかくるゆゑになるよしありて一条
稲負鳥ハ鶺鴒鳥なりといふ説にまかせてそ
まことに稲負鳥の名ハ万葉よりハ見えず
ともにいなおほせとはひとつなれども西行の
むかしハいなおほせ稲負鳥乃むしなりといふ奥義
抄にハむかしとかいふ文のかはいなおほせと
このうたハ古くハあまたのよきさまにとあり
故に又稲負鳥の田乃面にいふへきを童蒙抄

稲負鳥田面にいとふつるまゝに文万葉にハたのも
よりのかへるとあるを稲負鳥のむしにおもひなる
ゆゑ又六帖にあるのむしのかりをも鳥部にいる
ハ僻ことにして詞に清さるにあらぬ也

さくらあさ
桜麻 さくら麻の麻原（をふ）の下草をやくつゆハも
いろかは下ひもとかるゝをしる
顕昭云さくらあさとハ麻乃名ハもろこしより
ときたるをハかれたるのあさのはなのさくを
桜麻とはいふ文下人かへ中へいふさくらあさと

いふ稚児ありとやしさくら河さといふとしらくと
に稚児やそ種もぬのはそれもされはてもあさ
といふ花を種はさらしとくらへくさくら河さ
とかふすや櫻麻といふさくらの末とくの種く方言ふ
は書籍にもくらくもありて衣乃根なきも衣食と
いふまり当時よりみへときさやうに出てさくら河さ
乃河のとこ紙とも或は櫻麻乃麻原といふき事も
は麻乃義より出へる或櫻麻乃芋原ともいふ
里馬車へいとされと麻と芋と別の稚児あるなく
芋はいまは紙といひうしくもいふて万葉云

若参

櫻麻乃芋原乃下草露しあらは
あかしていけむ母やはしるとも芸ん
或はさくらをそれわふ乃下草ともよめり
綺錯抄にさくらあさとはあさを乃中にさくら
乃ふしあるあさ紙なり奥義抄の同じ
今案にさくらの花をおなか彫りしるしてしは
に河さたとの中にさくらのうてさはとのへるなれ
志のさ紙なへなりあさの花もしろされは櫻
にてへ紙櫻乃ちなえをもしい又来櫻とりきこく
小はさくらとよめりさとこうしをはてしるに失する

あきを惜みあさとの人はさもさてらさ
とゝハひとへよりあさかさまいあしくとゝ物うの
うの義のらゝ

あやめぐさ

あやめぐさとも菖蒲とも書あやめぐさ
うつしも人はさもひしくさ
頭脳云あまこハ躾種ゝ等の人精遠 あやめぐさ
し馬のくさねとも菖蒲とゝらゝ世俗語
ハ不許容を也とさもひとゝふを和訓ハ許
容とゝ所をとさむとゝらゝ

ゝ人ゝ山ゝあゝとさめあさとゝ乳
物のゝひとゝれとゝやさむ
人ハ里と洩ゝ人ゝもとさめあ山橋
ひも人ゝあゝあをとさめあゝゝ洩ゝ脇遠
よ面ゝ躾脳ゝ云ゝ
面洗とあゝくとゝ人ゝあゝ洗ゝあゝよ
あやゝゝ菖蒲とゝ所あさゝゝ
雖脳脳遠云あやめぐさ馬とさめゝゝ
よもゝんやけゝ
今ゝ菜よゝもハ強ゝ乃脳精遠を雖とゝまゝ

不敢考二上代射恒例一也恨やうこと

むさしの海乃とつ国

むさしの海乃とつ国もいまたしらぬこと

とりのこゑまとをしらぬ秋ちかや

顕昭云此歌は天徳四年内裏歌合の中歌

歌や右方や

判詞云むさしの国とり所のことはぬこと

海とそ云りけるやまちくらもとれとあや

まちあらんまはりてやを秋の為勝とく

今案考証式云歌をぬさの海乃とつふ歌

をいむさしの海乃とつふ国の判詞紀

考万葉集の歌を式ハむさしの国とのこと式

うしむさしの海或ハ海ぬしもあり歌もむ

海の海乃ちとあり事ハあしの文歌を

むさしの海とものあり事ハひかりあり

ふとをみしあり

鳥珠(ウハタマ)乃黒乃ふ髪のゆをしひさきわ

きもしらぬふふ

うさの海の歌の月のさやけくい

くみくまをあらもとをを

むさしの風かんのようへさそうへるまつもしたへ
まれをりへるみちれあくくり
ぬもむ丸歌ろ海まぬくくむろき
ふくうこ山よ月ろ海こぬ
ぬもむ乃歌ろ海月よあくませて
家なりいこもいくくも海くを
あまこ歌をうもこ海むもこ海ぬもこ海よ
あるる雲一こ紙の歌のあるこをのくうすこんん
文こ紙よあるこ雲のくも
うもむ乃ろこぬまくくはもあれ

ぬりてやこ海とあくたろあるも
うもむ乃ろこ山ろくこ山紙くなき雲を
こ牧乃ろへよいこまろくんう
むもむのろこ山紙あさあくこ海
山ろくこ雲ろうあまくよろ海ろ郎
あまくも鏡をうもこ海むもむとろありあくく
をうこまりぬもむ乃ろことくきこあろ紙もあるこ
緑緑紙云ぬもむのもろろくこととろありこ
ぬもこうとむと同ひく歌のるふ歌よこうのや
うようここあれも鏡ろも乃稲をうむへ

とんうんうち迄てら

鴛鴦とう家くくうめとよとこあうよ又同又字

をむめとうめうい同ひくきるうあくく訓ゆん

ようこいありつう形ちゑ或い戎メ来のちるとうさ

或いう来のち形とうあり

みうるうもあうこひうこうもあうて也ようせて

ようめう毒あり

鴛鴦ウハヌヘ乃日海をうつぬきうもの

拾ひうくうう殺めふ物う

但ひ毒うちめうくくう日紀とうひくくゆとうきあ

事うもあれううは也とよんうく歌というねい

ようあう日海をうをめくくうりむとうあうをを

ようあうふうもや物りつう形く但うもむとうの用

不審也りこうもとうさ物られも同義歌

又万葉ようもうを物くくりまり或う鴛鴦

黒也鴛也とうう毒りう鴛とうう字ちうう

ようめうもうう毒りう歌也とうう歌又いとい鴛乃形と

うう歌ううもとうめうとうくくうう事うによ

あり又鴨乃形もうう物られもうもをよ

めう歌又野平也とうさ形ちも也とうさ歌平

むとりき千ゐとり紀くくもうもゐとよめり今
芹順和名云鳧脛(カラスアヲキ)を六射千とゐとりかう
を鳧乃こかもうのあくらうさ猶るれもうもゐ
と義野千ふ文字の変かゝのあれた野千
ゐとりさ文和千ゐと出れをれを略くく千
ゐとりき略ゐとゐも云へ和ゐとも云へ
能因歌枕云うもゐとれらうの寄の猶をつふ
綿源抄云むさゐとは鳧風乃實をとり
和云鳧風(カラスウリ)乃こを海くくらうを事ゐ事ゐは
鳧鳧乃こをとうゐへうたゐあうへうめや

又芹可葉云河乃ほの祢(イホ)ゐとうわれ野千ゐ
の黒(コヽ)馬(ハ)くゐ乃葉ハ法称よあくあるもひ云のも
黒馬と云法を法ゐとあくらうくと云義う
さ猶も葉も髮も黒馬もうの葉れもうも
ゐと法くゐ河なるへ一方葉よ文字を略を
ゐ法ゐくハ祢示波ゐくくゐ法ゐくくゐとうあるを
示波と云くくも法ゐることとうあり祢字義略
をり又延馬曼大ゐとうきくくゐ海とうあるよ
る大とうりうゐくくゐ海とうあり
文うくをあゐさとゐ云石乃ゐをゐとそのこれ

ちりさりのこりたるを集と同詞なれとうたもの
ともいふなり
童蒙抄云天滝殿の合乃判詞をひきて云
万葉集は舊事也万葉集は舊事とうたがはしきもの
ともいふもあしかりぬへき事なり和字は順業
て作なり業のうしろにぬしとあるのんうるふ
なりとも覚て称と相違なるの由あるべく
小野宮殿（ヲノノミヤ）ゆ仰せられけるは
新古今の詞ならんとあるこそいと
よ付て撰式にて番不審并万葉集歌とき

あるべきなり中くよりは古人を尚び事審不審波
法歌又童蒙抄云わ夫乃ちまりうまきて
うたのようものあり乃ちこもりんとなり
うたもものようにてとうあり
新古今の詞云ものようるかや 修業のなり并歌
ぬもむ乃月よむひくかりとす
ちりさりの雪と紙とうと
むしもの屋このうつくいさうあるか
義よりうたんとうたりきり
ひ夢のふい夜乃月ちりの屋とうあるべ

又河ようこまあさとこまこの事あり河まこの事あり
てんをうるようくとらふんとこまをとをひ
ゝりくとへあり船
古の氏ようこ屋うさ海くるる或ちひとへよ水
乃あくのふくくうこと紙をり
ふくこ津こ月ムもの人を清ちうこれ
あくを秋り船あめ乃下り郷
うを事ハ世まふる柏を漁津船て
海ちうくたえん柏りを
又面乃ゆりやめいあとこ月こ面柏こ或いり

うこ
海りあるあるこあよみこ面うこうこの
清くこちり船き世紙面のむり郷
頸船云順和名云うこうこ清面ゆちうこ
とハ濃ゆくいハ清てもあちこ清ことハ面ゆん
海りふ屋よ清りの屋りよまりるり柏をつふう
たりこともこまこ紙ふとりふよ文字のりちり
面りを和りつり船きあちこ清こうこ別
柏りくあるへきゆ古あしもゆ面りれあを
うこうこあちこ清こハ和りるり屋りひあり

乃あるにはせくあるうる
おかるさ川りうせるよりくうるも
ゆるしらめや高〳〵さ物を
ゆひ川あくるとあるゆくあり乃あられ
うるうる人よあもてきくめや
みるこはくこれ〳〵たくまあり波とい
うるあるあ花を波とうんまし
うるあるもいひはくもあるり乃しゆくい
はちよいあら〳〵そらに清るまし
或いひとへよ波よるあるう

なあるまるるむろあるうるうる
久〳〵義所を見るるゆ乃
留のさるく山ふさうるうるん
えるて物まるて花ちらめやも
あ海さう波ひるよあるるを山をうるうも
むもと花さうあるくありかるるめや
うるうるもおるへるあ〳〵世中を
あまう義物とおら物るあらん
或ハ前乃名よるせるあり
うるあるれむまや人を山はくく

白ひちこらくそめくし物を
はるのいとはつ云はつ云菖乃うこゐこ乃むまやをよめつ
うくひすまやとはいまやはと云須るわ之云但つ云
ゆうこうこうこゐこうこそう歌法さろ
とあ云ろ法さ海くのんよかりひあきてそのひ
くこうをまるうまわ
凡うこうこ紙歌もろふさ海くこ能国の物よ
はは或は不忘物をうこかこと云とのの或はうこさろ
物をうこうこと云とのつり或物はは紙をうこうこ
乃とはつりう紙ろ物を云因はすや去撰式よ

も不忘物をうこうこと云とのつり
待経物はるはめ乃あ海ろくう歌まろ此物よ
な法をうこうこをはふとのつり
奥義物云うこうこはるれとは法分の歌う
あくう紙あろ物や之須はうこうこと云事
わりそれはよそへくこうあろ
うこあとつ忘ぬこ紙はふとそ物はは出て侍り
そ形きそにあてろむろ乃あこく
物こひはあくこもとあう海くこ
あきてこはんはんはひくさこ

学乃さるく山姫さうく
重ふるのひくもきあくをうく
私云ふ人いひとらす
さうひとの梅つきうけ
うきうく雲云ちわられて作豆人出
弓月ぐさまよすこうあるのひく
頭昭云さうひくい薩人とうまりあ毒紀人
ここうまり武士と薩雄とふも同事さう
ゆことふも武ちをふこの作豆人をさ
と人とう紀さういふ者同まれと郷人はきれ

ぬ者一さう人云ゆつさうこうまとい薩人乃弓
と云くうる更方兼ふい長岩乃弓槻ともあ
まふまれをくのの弓槻うけたるめりまれ
をくのの小槻うこうまともかまり槻と月と同
別るれを弓月ことうまり日槻山をも或白
月山と書こ或南粉乃人云作一い梅つさう
あけとうの雄略天皇の弓をつさ弱ら
しうう竜と手作さそ弱て弓をけさうの宮
やう牧やみますしおうの梅山ふうさけをと同
事欲まうをいる紙乃うこうおい武士う

かきけり
童蒙抄云さつきとハ五月にかゝりもち人をいふ
といひあるひハひるハ事とさ月をとハ志つ
をとゝ云綱をうさと志と同意也
又山畠よハさ月女の稲うひおそろしこ
なしゆゑく形り涜さの女紙わり
此書ハ康頼くは紙めふといふりさ種え五月よ
いおく月と家おくハあり故ハ歌よう字りいふ
とる也
今云志つなさつを剱事也志つ乃なをハ下さる也

又書同よハよ海あとまありさしめ事もい
又五月も生海なさ月なとい事いはされなと
五月農人をとてさ紙とめしくハ世又かきろふ
乃な稲とまき歌ハ万葉よハ年久ふのを西
かそ見へとよありき表のうち孫ちた稲そろよ
くまろふと云むしハあるへえと田といふ綱を略
しくいまろ宗のまた稲とハ涜く海たり
志くの女なさ
いゑたくの女紙涜く是てろ列く歩す
志くの女紙さなをあさらめしらふ

頭昭云ちくのゑぞさとゝいふのゑぞこと
なりかくゝ家すハ勸農乃ゑちくゝ過時不談
とゝかくゝとゝのゝ所とゝ云ちこのゝゝとゝ義なり
そゝ稼ゝかくゝきすきるくゝとゝゆゝのゑちとゝのゝゝゑぞ
さとゝハ田作ゝるゝこのなりちんゝとゝいふのとゝり
さゝ稼ゝとかくゝきすいゝゝちゝるゝのゝ田ゑぞ作くまゝハ
くゝゑぞさハ作ゝめくゝあゝとふゝゝゝゝとゝあゝゝゝや
催馬樂云ノ云ゝとくくゝとゝせゝゝくゝとゝゆゝさゝゝきゝゝ
稼くゝやゝゝゝゝゆゝくゝゝゝゝゝゝゝりゝさのゑゝゝやゝゝゝん
ちくくゝゑぞさあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝん

ちくくのゑぞさ
じちくくゝゑぞさハ田作ゝる稼なりちゝのゝゑぞ
さ作ゝりちくくとゝりとゝハ同文者なりちゝ作ゝを
ゝの人ちくくのゑぞさとゝかくゝゝゝ次をゝふなりゝ
ちくくゝゑぞゝりくゝ農をきくゝゝゝ
とゝのゝゝ伊勢云ゝちくくの山ゝゝくゝゝゝゝ第
かくゝきすゝちくくゝゝゝゝゝん
とゝゝゝりさ稼ゝちくくの山ゝりゝるゝゝとゝハ
くゝゝりゝ中ゝゝりとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ次をちくくのゑぞさとゝいゝんゝゝゝゝゝゝゝ

乃面紙さをいかとうちなびくすゑとをしさそひ
ぎの乃んちを別雪や俳諧物語云
ゐのこゝゑのちくけ面紙さいをもさそてゐく
いかりあまくこうわくまれぬまつて
時こさ月よるゆんわりゑ伝
いかりの和歌ちなちくの面紙さいた紙面乃む
ゐちとむ雲ちしまくあハ
はゐとちかくとさ寺をちくけ面紙さとゐむと
きちくゑのりさ神と云ふちたの今の家ゐやい
あちひちふあきちくの面ゐさとちふちをき

さちとかくとちよゐちゑ紙さちわとくかくゑ家ゐ
をちくの面紙さといふのかゐ
綿源物語云ちくけゐわさかくさ次をを或ちを云
かくゑ家のをいちくの山ちりちハゐくくゑ
ちくの山あのりあひさ回をとけちちの今ゐし
ての面紙さとハいひけちえゐり
雲石物語奥義抄 音義抄 和名抄 かくけ
さけをちくの面紙さとふとゐり
延房で云ハとくしをへわ乃種のゐのきゐ
ちくの面紙さの数のさちゐちり

あまつもおもしん頌

或書云かしこき頌ハしでの山よりつゞきたるを
つまくきてある越えまでハみちとらといふ
おもひくもおもひをちぎりあけてもひとり
うち出てみ九月頃乃こゑ
ひとハうちをいでゝのさゝてもとゝいちんとく
うるひことハ生死やこんろうてかく次
なきうれハ心ひとつ次寂蓮入道ハかく
三途しでの山よりたてよる事ハ法華経の頌に
地蔵菩薩経云地蔵十輪経云地蔵陀羅尼

経頌よりてくめうつけまうり可笑之くめとひ
しでの山より来てもうるハことハ云色くれ
まうそれるかく来て云事ハこのうちくるか
くこの寿よ付て云云事也大功ハ歌乃中有
帝釈浄瑠璃小児年五六歳ニ而根明利くなれハ
人界事也畜生乃中有ハかくみえるやうく
鳥のくすまぬ事也当世ニ形を顕也

何かのこ

さくらやよのうき紀さちあれと
大きく人君娘孫まてうけつ

頭陀とは行ぎやうとゝはを乃乃ゝ
日本紀に天智天皇霊泉（アツ）をおもひ給ふ
時仏ほとけを作らんとおぼしめしく揚地を
をかめ給ふよ海つ養（シナ）いあの花
よ霊源ありとゝ給ふ給ふ所門
おもひきゝ給ふ其の山岳りん給ふよ大なる光の
なまり朝よんを作らりゝくゝあつ給ふよ
仏ゝりゝく海ゝ作ゝ光よめゝ給ゝ作ゝ給ゝ優
婆塞ありゝく給ふと寺（キサ）像乃ゝ光と云ふ
乃ゝ帝（ミユキ）ゝ山乃名岳ゝひ給ふよ

芳野ゝ古仙霊源休義地作（ガ）ゝ名賓長（ナカラ）
山ゝゝく来あ来ゝ仏蓋を作ゝ給ゝ
崇福ゝ来ゝ光ゝ給ゝ作ゝ
の山ゝゝ山ゝ山ゝ
作ゝ来ゝゝ作ゝ
くを作ゝ来ゝゝ作ゝ
なゝの山ゝ作ゝ
作ゝ来ゝの来ゝ
人芳野葉云作ゝ来ゝ来ゝ
しゝゝ作称ゝゝゝ作ゝゝ

文覚寛治二天智天皇紀中納言長岳雅
[illegible]海色よりやうやう
[illegible]みのちい　私云ふるちい
[illegible]
今業よりあふこれ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
日安紀よ捷（サ）く浪栗（ナミノクルス）摘[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

事いとむ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ち鳥乃なく聲はさむくなるこゑの
おやしまおくもりぬるを神乃郷
事へハさくらなる花ちらなる因果也尤月をはなく
是ゆへなむかくよめる哥
ゆく波乃おかやまもりハあめのためなく
山よ志め標ふさゝもあら那くそし
さて那きの名ふ流ゝの月人男からさひく
梅遣てるこや月人遣もさひしも
ゆくなこや花の山の端こそ恨まし
流りを流わけれなてくなるこゆ

沙氣(サヽ)数浪(ナミ)乃志ろ津ん瀬乃めのこりよ
の里ふしん流ゑよそすきまと
更波(サヽナミ)乃志ろの面かれてさとむとも
むかしの人のまてもあちめやも
沙更波(サヽナミ)の志ろ流の面かけれなつよ
くろきハなせそなく爲よるも
さ波のなくゝ山よくとぬくハ
おめそぬりてふ念里ころせこ
又長哥云 いしちつ里淡(アフミ)海乃くにの
ゆくさきの柳なり乃こやふとと

拾遺集人丸云ふるかはの上瀬乃浪
あれまさる春のひさかたのあまの
神垣薄波立云
ふるかはの上瀬乃浪の神垣
をしなべてやいくせうすむ
今年日本紀云為審神者俗云初天皇控御
琴而建内宿禰
夏大后歸神言教之帝依沙者唱進之義
也言后神承種沙流之庭也今代号控琴
人為沙庭者少有意依相兼号耳

今集万葉書神垣とよむ是義歟
只不ふ許書之も續日本紀神之祝之写葉
書如前者

袖中抄第十二

同緣

かたこの物　[illegible]

[illegible]

いとやうの

[illegible]

[illegible]

いとこの称

いとこ姪称

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かさゝぎ　又ものゝ川

かさゝぎの渡す橋とおくしもの霜をかさねてわたすなりけり

あしの葉にあらしのかぜのふきしをれてこゝろ乱るる秋の夕べ

題脈云かさゝぎの渡す橋とは神乃法めつゝ成たゝそあ
まつこの梅こよひ[illegible]ふくいろ[illegible]
たゝとは云ゝ秋をねたゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つまり帝德乃ちうの姫をもて
風よりあらくく風俗とのつりあまりも同事々
神風伊勢とはくるるもくくち日本紀云雲仁
天皇廿六年三月朔天照大神を豊鋤姫
命より離くく倭姫命よりはじめ倭姫命
大神を志摩の海さむ面を来む菟田乃篠
幡より泊りくより近江国よりへ東廻美
濃国伊勢国よりいくり時天照大神倭姫命
よりくくの給くくしは神風伊勢国をもとめいら
ゝ奄の泊重浪国也傷国丁鈴国や

しは国より吾と思と故大神乃をもてへゆまいにく其
祠伊勢国よりあつちくあつちを五十鈴川
乃くくより奥をもとめ国をいとの方をいふ則天照
大神くくめくくはのちくくわ給ふ所
又云氣長足姫尊神功皇后伊奢長皇の
神乃をもてへよりあつちくくひく統志の橿日乃宮よ
ちあつをあまりの法をいて給日くくあつふ
神をもちくくあつくくあり給ふ
給ふくくよみをもてしくくはくくあつくくあつ
をあつくくあつくくを小山田邑よりたくて

三月朔日より宮居吉日えらびくこうつる神主
ゆり給武門宮称よりおわせくゆとをひらしむ
中臣の舊職乃使をもてしく審神者をえよ
つまくこの猶言猶をもわくゆるをもてこの而
をいくこの結しくいまこの乃日小天皇小をへ
給しいたまの神をもて神をくいたのこる紙し
出しむしこの七日和よいこわくこの答しくこの
海をくこの神風伊勢乃宮乃百傳度逗縣之折
於五十鈴乃宮よ而居神やる紙檜賢木巌之
沖縄天踈向津嬢乃命こつふをこく

私云天照大神乃わ心紙あきます海をとまれ
それめこをあ神をき伊勢宮といふこをこつ
之万葉云浪舎のこあるこよ神風よい吹迷
あ神宮の日乃めこ乃をんどこをこ小和歌を
こ海ひくこく
今案よび長哥乃ん乃を沢白よ伊勢と伊勢宮
といふこ海こひしあ海くこ紙おこよめり風
あこあ心よ神りいい助字よ威風徳風なり
いひくひろこ事をハ風よあこふをこ西の
あこの出乃をこ神風よあ心

とも申ならへし其中に伊勢国にも大
神宮あまたまします所に海をへだてゝ神風伊勢
といふことはいかゝ所あらへし只神のめつらしき
ことをもて神風乃字をいとられ給ひ(イ)給ひ給ひ(スヽ)給ひを或
いはをもて或いはいとゝ或いはいとゝとゝあらひい
もゝ川を見てもゝとゝくらかりやへたゝ神ゝの流
れよあり

義慶歌合詠作之時詠之

えらび代ゝ流ゝ神ゝ世ゝ
見てもゝとゝ川乃ゝ海んゝゝゝゝ

ゝ神風の吹風ゝゝゝゝ万葉
集に神風とゝきゝゝゝゝゝ吹
ゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
神乃流ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

國にハ濱荻といひあつまにハよしといふかことし
いせこのうハさハ海にあることは久しくおほゆらんと
こゝに實綱(サネツナ)ハやまとの續紀授云神風とハ神乃流
めくみをうけて通宗ハ朝臣藏人乃安樂(ラクニ)あるやうく
神風とよみこえありて浦をも人にまかせて伊勢
太神宮の御事をのみ申しそむきましき さてやう
なる也
能因歌枕にも神の世にハ伊勢をいふことく
奥義抄云神風伊勢とよみ合せたる歌ハ見えす也
川に神の瀬と云瀬あり大神宮乃おまへにて

あてる所也予とも次んかくことはくハ見えもれて
ひとつにかゝらん所ハよもあらぬ或ハ神風
めくみをいふよりといひてきゝもちかくきこゆる也
初に神の瀬と云義之師説にもとも申達一字
まて神風乃との三日本紀よも万葉集ともこの
さくく神之瀬と云事一所も不見也又何
あつまふことにはあらねとあふさのうちにある
所なれあつまくにはあれて神風伊勢と続
くともよいさの事乃所くをも続きまいハら
こゝろ得しきよ万葉家ともハ所よとりく ハ

伊勢しのこときゝたり
神風乃伊勢のはまをきをりしきて
たひねやすらんあらきはまへに
山乃をのこ井をみつゝ神世乃
むかしのことをおもひいつるかな
又日本紀乃ん頌とも謂人不知
神世や伊勢乃ことに記したる
ところのことやそれを稱すり
之集に伊勢の国乃内なる名所を詠む事
ハつれとも漢に一と康暦乃哥合にも見ゆ

もとこれハ宋志應り梅かりもとこゝり
きのふ迄しくすゝもあり海さりし許りさよ
やまとへ乃絵めりしかとく勝く絵めつらへよ
技哥合技式人の裝よ唐裝束乃如くも抔
かくまらひぬく詠詩ヲ此哥ヲ名感頌ヲ云此哥
かく帝皇流宣英丁ニ讃長さし逢ニ七十七
かく宮詣清らく歌合ハ康暦二年宝月廿八
日也帝乃治年廿六也又十二年天下統柳さ
めれもし海を宋代雖ある事也此哥の感應
かく絵哥集一もとろくやうてしたるまみとへも

ひろく伊勢乃国乃あらましをしるすにも
神風やといひまさまにこそ又浜荻といふあり
をいひ出せし故乃風俗ありけるとそ蘆をも浜
にやかひのなの荻とよふと古乃人云あり
此梢遠乃作者小竹渡命婦八浦観すら撰
なり蘆浜荻乃名をわかきり浜にかへぬる
むかし又あらしさへ無縁歌あらし伊勢乃浜
荻ともいふこそあまたしるそ此実を知る者真なる
ためし又獨観歌にも紀をあらかたもすまて汐乃
こきしれわかなる人をまつのしりと伝しき

此実浜りい海まくく上ことのあれこれやきる
不貫獨観集歌あり
いせくあ称
されとわか乃伊勢の江あさいはるつくかるに
り伝そり海まくあひちろきさくむ
顕昭云いつくかる称とは万葉集に伊勢乃手
船とも云なり船を伊勢とも名づくるにとし
なまつるらんよめるにや
日本紀第十五云應神天皇五年十月より
伊豆国よりわかせし長十丈乃船をたてまつる

しむんよ海よりふとれたちう弱多く
うのくとくのあとたりあるとあは
を名を粘野（カル）と云粘堅と八拾人の泥（ミドロ）し
同世一年秋八月宮に船粘堅持く男泥ぬを
を船乃名紙あくたりあ拾ふたくへん
とくるる日二人食（ホドコ）しく真船粘を彩と
しく堀を掘りしむ百姓乃堀を
堅則拾ふ賜くく船を作らしむ弱
粘堅を堀彩（クダキ）ます日餘燼あり則を
もえたくをあやまむくく天皇ふ敬と拾

よたくくしむを鑑船持くを堀を
文万葉才廿六乃ら伊豆平の船乃うら
たくあわくいあらあるれたやこうもを
家持（ヤカモチ）の郎平国わくく泳ぎ人ぬおのらよいた
乃船平泳と伊豆船を家持とつまた
よあるへ船わくも便よあるうひく
豊浦（ミツウラ）船たく船ふくもあり
文武ふあつるとくもあり
たくあ八粘をさへよとんれ
文る激船をあたくうよたりせと云あれ

別義ゆく君をはなれ順和名抄に
船とりこぎくるゝ也ゆ船とゝあり
光孝天皇元年遣渤海國各遣二
渤海二艘一ゝ
船ゝ也ゆ船ゝ
あとゝ船とゝ歌河を對しゝゝ歌さた
りゆ船船ゝ船ゝ
奥義抄云船ゝ船ゝ
くゝよ一人法ゝ
てとゝゆくゝ

船ゝ抄云ゝ
わゝ船をゝゆ
船ゝひくゝゝ
とゝ八一人をひくゝとゝやられと
又日本紀に熊野乃浦(モロタ)ゝ
ゝゝ乃船ゝ
を船乃大ゝ
二ゝ三ゝ
しゝゝ
よ八(ヤカチ)ゝ

あたらしき穂ておかりの湯かきよ紙さわくく八と
ゐえめ良ハあふくもあくさ湯歌桃ハとわの花
おくらもらく二て八るさ湯袖なから頌八を法
粉乃おほの湯るらゆく屋てやとおとるめ
里めハ湯粉のおりの湯やさそい紙ゆくとよめ
むくされもいつ良ハおりの湯の千すや
きろちるや梅の見ん
いきるるよるの世ハ為るんきろちるや
梅くくの里乃おきし梅くてむし
顕昭云書ても古今集入不知読也涌縁と

中信の中納りしハ世ろハ伏見仙人の歌にて
続古今羇旅歌恵心僧都の物語とりの中よ
伏見翁と云物ありとて書て湯さ様にこの歌
作りしハ見てとも見んと云ところ山城国涼
第の国よ続書てきろりる梅くに大和国ある
後撰云
きろりるや梅くくの聲よ見んとるこそ
霧よ梅のふをりつきの風ふし
書ても大和乃梅くゑや山城乃ふりて見人あるも
大和乃きろりきし山ハりくくゆへさ

奥義抄に云安康天皇殺菅原伏見人野
中の清水（シミズ）を葬（ハフリ）このあぜにうゑ
し菅原流とあり今人
もとりしやあぜにはなをまてしら
かしの人出はもあるべきす
ぎまつはとりつとふよはさくあぜにこのさ
くらはなをあるあぜに伏見乃あぜにいはゐ
はりやうにたまはりあぜにこの田あをしめ
る伏見源理太夫後徳親長伏見乃田新なと
はしらくさくさくさくさくさくさくさくさ
くさくさくさくさくさくさくさくさくさ

乃あぜにこのあぜにあをしめる
巨標（キヒヨウ）乃へはひらをあり射目（イメ）人（ヒト）
伏見の田のあぜにうゑたるさくら
宇治河作にこの巨標いとはよおもしろき
あるあぜにまてこの玉鬘山城乃ふしみ人と
いへる人ゆきてあぜにはなをうゑし
いるあぜ称
さくらさくら乃ひまてさくらいるあぜ称
いるあぜいはしるとこのはさくら
顕昭云いるあぜにはつまあるあをたる

ちうこ川をおもひ家と那（モ カニ）あり その那
ちうの縁あれとこうりやきいろりの心乃
鉢乃まへちうのられありそのゆゑ那くの
このをいはよりこうゆあちよりわさもまとの孫
そもりこそのりうあ那くのいるはわりの縁し
のりりくうりあとうけちうの孫しのりまてちり
といふいるあくいちんまうよいるはしこうちきし
よの人をれとはこのあ系統理大まの乃ちり
ちはの海とうまを西りあくういるりきの
いるとい人ちいとんもありうん

とあるの縁ちりあまの海んきいあくく
ちやくこあのりるりとを縁とりこ海とふ
いありこさ義るれとちいるれとちやこさのるれと
ゆりのりるいたまの事りまてゆまこりくく
ちをりとやいありこさりとちうこ海あもひく
角りまくこあまくこ縁とりくくるこさひ角り
海ちくくもわはんあ事くおの海きこりと
いこもあ海りよひこりこくくふこ
縁ゆ乃海まいありこひこのこ乃んあく
いるあといひをこりくるりこよいあり海こ乃

月をうえあつめ〳〵あそび月あつまるいあそん
とらふめくるてあま船をこの月をうやこ
いまそくあそんえくくのかまてをうなかをもひ
とう船乃あそくいとくあり〳〵なかをひ川をあ
船乃國をうとの國へなるまものゝ稚し澄奥
をのもうめるなかをうと川を山流うり
なる稚くく津乃國へいくくうの川をなかをく
をうある稚くく紙乃面へあくくうをいかるまをみいる
船くくをも川をあくくて船乃〳〵らを物まを
いる船とらふあるもめり月をるるをさまを

清經物ハをうこのあるあ船國よりうちありと
稚りあくくいる船くをいう船まををいふくをを
蒙物あいるあ稚くをい稚をなくくあう船くくを
いひをのりるあるひのゝらをあるくもいうを云
名物まハひ而いなくくの國よりありくくなすて
のりうまハをを日をうをを日をうをくまをくくあく一日をり
いる船をくくを乃宮よりあ義を和經物よりハひ川
あまくくのありうあう稚いまをういる船をい稚を
なりり奥義物をいいるあ稚をも頭（カシラ）をあるくくを
古義をひをうあ船乃後人のアをハうの河を

[illegible]
[illegible]
[illegible]

び贈答おくるもの形ち絵とかくあり乃ち
〳〵もろ〳〵の人のなを嶋乃ことゝ云ふ所〳〵にて
そこのひろ海よりやしほをくみうへうん
数多つゝきとろこの所ひとさこゝ川そこの
國より次いつゝ〳〵名をのへうこゝあるこゝろ
もろこゝ海をへもてことのひあふこゝ海のをこ
あふこゝ海とこゝ和かもこゝろとめこゝ多の所
乃名をうこゝあこゝの所こゝよこゝ比ふこゝ東の人ん
海をこゝ形〳〵況や帝に為〳〵めこゝをこゝつ
者のこゝあこゝせんこゝめよこゝくあつこゝ多のよめこゝ

せわ形こゝあつこゝ多のこゝろもこゝ帝にのこゝろせ
こゝあこゝ海つこゝん形こゝもつひこゝこゝ分業こゝも東
多所乃〳〵法西の海人乃名乃風俗こゝつこゝで
こゝろこゝのこゝ多こゝ名こゝあ所〳〵の海人乃こゝあこゝく
西國乃多へ乃こゝ所〳〵こゝもこゝこゝこゝ〳〵こゝ海こゝ六國
相をこゝ大義者こゝよこゝこゝくこゝまこゝこゝく形こゝひこゝ乃こゝ
ひこゝこゝこゝ乃こゝ多こゝ乃ひこゝんこゝをこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
多こゝ風俗こゝこゝ多こゝこゝこゝ同こゝ多國こゝ数こゝ
大こゝ宰府おこゝこゝあこゝく不こゝ海欲
こゝ後形こゝこゝ海をおこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ形をあ

しかくれたる所歟或物の拙き事を知らぬ侍
れりかをりをりをりさうつゝあり歟
いさやうは
あつまちれ島（トコ）藤乃山なる所不知（イサヤカハ）歟
紐（ケ）乃うらあ物ちを恋ぬるあしん
顕昭云とこの山いさやうはよりあり之方
葉云物上（イスカミ）乃島（トコ）藤乃山なり不知歟（イサヤカハ）不知二（イサヤト）
文す許（コ）瀧（セ）ゑ物（ワ）若葉（ワケスナ）而板橋遠原云あふ
このいさやうはいさやうふ仕集をゑらへりて
古今哭なる哭事文云あめ其ゑうあふこ

のうら移へよ移ろ
いあうこやとこの山なるいさやうは
いさやうあうへくゑ恋ゑ和ゑ
う移へ山ゑ
山ちかのをちこの山乃恋ふこう
人ゑんちうへくゑ恋あやえ
物ちあ滝なをゑ流ひいあうこのとこの山の雲は
可葉のいさやうは乃雲や光不雲や可葉ゑ
いさやうはとあきてしいさやうはこ不可云歟
大ゑとをは那やは日本紀おして漂水ゑ

いさゝ水とゝ云ふこゝ
ある水なり
又古書云ふ加このいさゝをうこのまゝこゝの
まゝてゝ云ふまひひとわと云
和漢物云いさゝをうかといやつまこのやうつこの
つまこのこにてゝわあさやうあくるり海をこゝ
まゝ水とゝいうくいさゝをこゝ
又或書云海水とゝ海よさゝうこのちをこ云
續漢物云いさゝを用ゝ事ハ人皆不知事
秘事也又ゝあらなゝとゝもゝハ俗ゝ毎毎わく

ふこのあるとの海さわくくゝとゝわあり物あるを
こゝをゝ物をこの法乃高地いあゝこゝわゝ
もゝゝ云ふ乃いさゝをゝハゝゝとあゝ海を人ゝこ
らゝゝとかゝ事ゝていさゝをゝハゝゝらゝくハゝ
物ゝゝ水を記ゝゝ水をゝ有二流一ハ清水
ゝゝ益法水ゝ常ゝ夢物大自然和漢物仍明ゝく
蛇華水とゝゝ記ゝゝ
又云大和國ゝ薬川ゝゝゝハゝゝゝ物ゝ法ゝ
遣水ゝゝゝゝゝゝゝ事水ゝゝゝくハゝゝ
ゝゝ物歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うかんとくそうの菊とうかやもあり
李濃經本云非雖非數多一可云義和色歟
云こと又黄色若葉のうへ也下は黄色見黄色
者今目明（ルメシノアキラカナラ）世のうへ又醫書ニハ不見ニ由醫
家ニハ中世と黄菊ハ良薬とや伝ふ仙家
帝黄菊を賞愛し給ふ又兵部卿
て黄菊を好給ふ也義和色ハ無數歟
名物云ふ所きくと云ハ義和乃名と
一本（モト）菊をこのゝく為うせ給ふ物語
あり行幸にりうきりあり菊ぬい

ぬをん人を賞愛きんと宣旨を下さ給ふ
つをれて世中の人あそわく家もくとと
ゝく家あそわ一をゆく菊を植ゑわくま
いつ也ゝ物とそて人やしゝく一本菊乃名
を義和菊と云ことをの
出やくいゝゝ也みさえゝとハ物とゝゝ
ゝ物とゝ物とうよゝゝえゝとゝ云やゝれハ
義洛要乃詞とゝて義ゝゝゝきゝとハ黄ゝ
菊とや人もあゝゝやゝくハんを殺とゝもん
事ハいくとゝきゝ色ゝとゝやく菊ハ本乃植ゝ

[illegible]
むしの菊のもとのことさえつさいんこをもまた殺
[illegible]とう〳〵[illegible]
[illegible]
むしのをも代菊とつひ作りんきるう一
[illegible]
奥義殺云ひ菊の菊乃一なきくあくる
[illegible]
[illegible]
あるさというとのてうあるさ海とうあり

[illegible]
同云いろてわあ〳〵[illegible]
[illegible]
[illegible]

源氏物語絵合巻に
さかりなるなり
聖人の書にはあらねどもいとうつくしう
まことうつくしうかきたるなり
題目にはなつまつとかるものの名なり
加藤川源左衛門が濃き打葉の色を稱して伊勢の津
万色にこそ今宗若草を可言歟
清涼殿にさかりなるなつまつとかるとうちあらら
第のかみく
新古今にはなつまつとかること二月なり源氏物語にはなつ

第のかみくはまことうつくしうとかるなり
もとはこれはなつまつとかるなり
いとうつくしう
伊勢物語にはうつくしうかけるゆゑにうつくしき紙
人はまんじもとうん事にうつくしやうふ
万葉にはうつくしうとかるなり
ひとくにはうつくしきものをとも
第のかみよりはなつまつとかること
事にはなつまつとかるなり
うつくしうとかるなり

いくつもしへさ事ありしかとも遠きのうつりとと云
もを陽乃ひとへ
をうの乃ちの門れよりうんうをの
山とり乃手口呂乃波都ワヲ平に加ゆゑ
とれ乃ゆゑこそそるふうそつまをめ
顕服云山とり乃をうの乃ちの門れよりうんうをとい
ゆうくうりゆゑ程よりの事ありひとの門よりの山
うんうよりを乃うの程まつるをうんうく海をいつう
ひとの門よりこのうんうをまとつふい海とのうくこ
まいあうくうの山とりいあれとこひとの門の面うい福と

山乃ゆをあくこくゆゑるふあうゆ歳よりをとり
乃ちれよりめくりの乃ちをまのうつるをうんうくあけい
くれをとりあれよりくうんうくくとを遠ひ二義乃ゆ
さ紀乃義ゆくいを尾よりをうんうくといひうくう故
乃義ゆくいを陽をる雖遠乃い助を遠乃ちのを
法れくなれゆくこめよりを重いもりゆとつへを
ゆゆうゆゆるひあり
今嘉よりを山島乃尾よりを陽あくにめとりれけの
うくうん事いくゆくさあゆを書ゆもいくたい
くてうの乃事ゆるへ歳ゆ中のをのくゆい

山ゐなかのひとつの所にてまつ[illegible]
[illegible]へるあとありまつ尾よりまうくんす
[illegible]かんなとうまうの屋よりきのうたりさ
[illegible]紙のくまもの事あまたそれよりせくそ
[illegible]くんくくとかいつ毎付きをかとかはとりつつさ
のもつをかの尾のかのくんれも尾とこそをかを
[illegible]をとこそ平とこそ字ををきくあまつもる紙雑
[illegible]とんかう毎もつかの初とふかふかの家
とり紙をかまをあれもしらをぬむをかいとろ
ひさとりひとつ物とうの屋うたひとりあるを

とりをとつかをとこそへかんなをその雑とり
の尾のかのけ初とあかくこよう家あくんと
きくくんのきくかのあり同事の尾とこむ附
まかの屋尾とつふをくをとう家りり
初をへとをつもう初つあくの紙
山ゐの尾のあるきこのの紙
あくの紙の山ゐるの尾の一巻(ヒトヲ)こと
ひとあくくあにふ毎を物を
あくの紙の山とくの尾はきくりおの
あくくくの紙をくうこの初んん

みちのくにの国の名におひ給へる尾の
ゆきのもとにもとゝ侍るこゝろ
ゆゑ
なるべきなるべしとかの平とうの記に尾とゝり給へ
雅とんうの物へ
雲居物云ひ夢の続乃おやこゝろ
事ものもとゝ侍りとゝ乃ゆゑ
てゝ侍へ
とゝり帝ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

てんと宣自ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
乃ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ
ゆゑ

壹里芸物云　六帖云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時移[illegible]

異苑曰山鷄憂其光羽

映水則舞魏武帝時南方獻之[illegible]養舒

令人取大鏡著其前山鷄鑒形而舞不正

又云[illegible]乃知[illegible]

[illegible]の雉乃[illegible]尾の[illegible]

乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝ山の尾をたゞしくとりあつまるよ曉よ
なりくを鳥の尾をもあまくこゝにかよめり
のあるかのくるんよゝゆるやびのへよ山るれかこ
こゝ事いこゝをやとまつ所とわくさこゝ四
間こゝ山こゝの尾をあつてゝぬくいつ事こゝの
尾をあつこゝかるのいあるんひこゝとこゝよ祈こまこ
雉の尾をかりやてこゝ中よあつてゝぬるゝや
田舍(イナカ)のこゝあくこゝをつこゝこゝにかりくこゝひ
祈こゝこゝとゝ人もかりこゝ小言こゝあるん
いこゝこゝ山のかをあつてゝぬるこゝて

いひをこゝこゝを所かこゝ言ひこゝこゝくゝぬかあまこ
なこゝ次かりくかりひ言のかこゝ尾ようんかこゝん
ようかへり
人尤言よかりひ山るのかのこゝこゝのかの世
こゝかるも山こゝのかこゝ言かかくかるへ
こゝひこゝこゝかるまこゝこゝくこゝかこゝこゝて
やめまひ言よ山こゝのかこゝかるこゝ尾ようかこゝ
こゝ雉こゝかこゝこゝのこゝこゝかりかこゝこゝや
義こゝかりこゝこゝこゝんこゝ言こゝこゝ雉のか
こゝふこゝや祈こゝ尾こゝこゝ祈こゝ言こゝかるこゝひや

万葉集にはたゝ猶よ如山乃雲乃たゝなへら
耳猶移乃雲乃たゝなへらせ猶いもろ兒乃ゝへろを猶
清水乃ねゝ乃ゝ猶ゝ乃ゝ猶ゝ乃ゝ猶

新たに[illegible]人を[illegible]
びの乃んを尾より[illegible]る山歌を右枕の[illegible]
び義を[illegible]ゆ[illegible]り[illegible]所もゆ[illegible]墨乃ゆ[illegible]く
まくの猿を[illegible]家[illegible]所より[illegible]ぬんをねせ
ふうわりつう形
久ゆふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]所[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
唱[illegible]事[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]所[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
[illegible]ゆ

事やうにいひなすものゝ云事にあらしと
まことにあるべし
六帖云罰賞王侯一齊懸鏡以照万邪
鶏鳴而舞云々
あゝしの浦乃事歟
かのくとあゝ此うしの浦さゝわり
ゝ歟くまのゝ紅をゝりふ
頭脳云和六条左京兆乃さゝ神ゝ以相つゝ
年まてひさをゝ不あ的ゝくゝ年乃後始
業乃ゝゝ何事の不審ゝり乃ゝ或

人云順石乃浦ゝ云ゝ鷲ゝ不審ゝ海鄉云
あゝしの浦ゝあゝしの浦ゝいとゝもへゝれ或人云
清流潟ハ大島ゝ一國ゝ潟ゝ乃ゝ紅ゝ
そゝふゝ不ゝ歌
今業よゝあゝしのゝ紅ゝ二潟
ゝ乃ゝ潟ゝ乃ゝ紅ゝ
ゝ乃ゝ潟ゝ乃ゝ紅ゝ
ゝ乃ゝ潟ゝ乃ゝ紅ゝ

物ひとゝ物語りさまざまのくさ〳〵ふたり海の
見をのゝ川乃のゝ紅葉さへ
いとゝ山賤へよさゝ分とられて
ものゝ風ゝ物ゝ物ゝ
岩鼓ゝ物ゝ風ゝ小袖を高物ゝ
ゝゝと或人ゝゝ
をんよゝゝへゝ
乃ゝ紅さ物ゝ物ゝ
角紅て
ちひさのゝ

物ゝゝ物ゝて八せゝゝ伊佐菓ゝ
ひち沼奇のゝゝ紙ゝ
顯昭云ひちさのゝさハ播磨よありいさ
ゝ川ゝ川ゝ
俗流ゝ云ゝさのゝさゝ
考孫姫武云
あゝ時ゝ海ゝゝのゝゝ物ゝ
獨言乃ゝゝ乃ゝゝ
久忠見集云
ゝゝ川例ゝ年来法乃ゝ

左右ふたつく天満市場厨子家よりひろく養へ
主殿寮
さうぞくのくすりさのるうるはしつむ身
浪乃ちすりをまつめてあり寄る
ゆんひちさ日くきさぶること中須須
或寄枕ゝハちり日紀乃ゆることとうまりりてひと
図ひくきこのまてしかしひくく須又日ちう須
ちひきやくくしくうれまうへうちや